



第14号

偕楽園公園を愛する市民の会

事務所  
〒310-0845  
水戸市吉沢町2-22  
湊 正雄 方

Tel・Fax  
029-247-0438

ホームページ  
<http://www.kairaku-en.jp/>

### 『偕楽園なんでも百科改訂版』発行

平成二十八年の「梅まつり」を前に『偕楽園なんでも百科 改訂版』を二月二十日に刊行いたしました。直ぐに販売を引き受けていただいた川又書店と茨城県観光物産協会売店（偕楽園公園内の見晴亭内）、偕楽園レストハウス売店などに運ばれ、店頭と並びました。順調に売れているようです。趣のある表紙（ちなみにこの偕楽園の絵は湊会長の作品です）と一冊五〇〇円という手軽さに惹かれて手に取った人が、豊富な写真と読みやすい文章に納得して買っていかれるようです。



### 改訂版の特徴

#### ①震災による被災と復旧を紹介

東日本大震災から五年が過ぎ、目立った被害の跡が残っていない水戸市では、次第に忘れられていこうとしています。改訂版には偕楽園と弘道館にそれぞれ二ページを割いて被災と復旧・復興の様子を記載しました。重要な文化財についての被災と復興の貴重な記録・資料になります。また、文化財を守り、継承するには、多くの人々の思いと関係者の多大な努力があることを理解すれば、文化財や歴史を大切にすることが養なわれることと思えます。

#### ②「日本遺産」について説明

弘道館と偕楽園、水戸彰考館跡、日新塾跡、「大日本史」の旧水戸藩の五つの歴史資産が最初の日本遺産の一つに認定されました。これを受けて「日本遺産」の意味や意義を説明しました。偕楽園と弘道館とこれらを作った水戸藩については初版にも記載されていますが、偕楽園が「教育遺産」として認められる理由である弘道館と偕楽園の「一張一弛」の深い結びつきについて記述しました。

#### ③一般書店でも販売

初版は学校での教材として使用することを目的に発行し、市販しませんでした。しかし、教育や観光、案内等に携わる人々から入手したいとの要望が強いため、一部お分けしていました。改訂にあたっては、資料提供者、執筆者等に了承してもらい、一般市民や観光客にも購入していただけるよう市販の書籍としました。

### 改訂版発行の経緯

初版発行直前に大震災が起り、偕楽

園・弘道館は大きな被害を受け、その復興によっていくつかわりがありました。本会の事業にも変化があり、市販への要望が強く寄せられたことから改訂版の発行を計画しました。

弘道館の復興がなった平成二十六年に、水戸市の「わくわくプロジェクト」に改訂版の発行を応募しましたが、残念ながら不採用になり、二十七年の事業として取り組みました。初版の編集と執筆にあたった会員の有志を中心に編集委員会を編成して作業をすすめました。



大詰めの編集会議

改訂版は「震災復興記念」とする予定でしたが、平成二十七年四月、弘道館・偕楽園他が、「近世日本の教育遺産群」として日本遺産に認定されたことから、「日本遺産」認定も記念する改訂版とすることになりました。

震災被害と復興の内容については、茨城県偕楽園事務所と弘道館事務所の全面的な協力を得て原稿ができました。日本遺産については、文化庁のホームページと水戸市教育委員会の刊行物を参考に、ストーリーを明らかにすることに努めました。

そのほか、初版以後の変化をふまえて記述や写真を変更し、要望が強かった偕楽園の門や偕楽園公園の現状についての記述を加え、十二月に原稿を完成しました。

### 改訂版の販売について

今回は、水戸市への寄付は二〇〇部にとどめました。学校と図書館や市民センターで活用していただくことを期待します。

観光客向けには、茨城県観光物産協会（偕楽園見晴亭内）、偕楽園レストハウス売店、

## 活動報告

### 弘道館 親子の論語塾

「論語委員会」

論語塾七期目の後期は、例年だと茨城県水戸生涯学習センターで行う十一月まで、弘道館で開催しました。



11月弘道館至善堂

十一月は暖冬の影響でさほど冷え込まず、雨戸と障子開放しても大丈夫でした。弘道館は、書見台が置かれています。先生と受講生や受講生同士の距離が近く、親密に一緒に学んでいるという実感がわくのです。（十一月の写真と見比べていただければわかります）



12月生涯学習センター

そこで次年度も十一月まで弘道館で開催することにしました。